

寝屋川民報

議会版

発行
日本共産党
寝屋川市議員団
824-1181
(内線 2399)
FAX No. 824-7760
Email: jcpncc@cc-net.or.jp
No. 2088

太田 とおる
高柳2丁目49-2
TEL 826-1664

田中 ひさ子
国松1.0-36
TEL 825-1714

寺本 とも子
豊原町38-1-105
TEL 829-9424

中林 かずえ
宝町4-3-3
TEL 839-2289

中谷 光夫
高宮2-19-5
TEL 823-5947

松尾 信次
下木田町12-6
TEL 821-7427

アメリカ・大企業いいなりから 国民が主人公の政治に

日本共産党演説会で 宮本たけしさんが訴え

十月二十九日夜、日本共産党演説会が市民会館で開かれました。

初めに中谷光夫議員が、寝屋川市政と日本共産党の活動について報告。大型開発優先をやめ、くらし第一の市政、市民の常識がとれる市政へ奮闘する決意を述べました。

次に、宮本たけし元参議院議員が、先の参議院選挙での支援の敬礼を述べるとともに、日本共産党の力を大きくして、総選挙での前

進へ奮闘する決意を述べました。

宮本さんは参議院選挙での「与野党逆転」の新たな状況、民主党が「対決戦術」をとっ

日本共産党の尽力で 「ホームレスから自立できた」

宮本さんは日本共産党のはたしてきた役割を述べました。

第一に、日本共産党が侵略戦争に反対をつらぬき、八十五年前から、国民主権や男女平等を訴えてきた党であることを明らかにしました。

第二に、大企業中心の政治から国民のくらし第一の政治に転換すること。大企業からピタ一文お金をうけとらない日本共産党こそ、この流れを変えられると訴えました。

第三に、アメリカいいなりの政治から脱却し、自主独立の日本をつくることを強調しま

した。

その後参加者から質問や発言がありました。ある参加者は、「私は三年間ホームレスだったが、共産党議員の親身になった援助で自立できた。政治を変えたい。政治を変えたい」と述べました。

視界

広報ねやがわに広告が掲載されるようになります。

**府営住宅
総合募集**

新築・あき家待ち募集
申し込み期限 11月末

お問い合わせは党市議団まで

「民間経営の感覚を市政に」とする市長の方針のもと、先に市の封筒などにも、広告が掲載されています。しかし、これは市民的な議論のうえでされたものではなく、また、広報については、もっとやるべきことがあるのでは、と疑問が湧きます。市報は市政の情報を正確に市民に知らせるとともに、市民の意見を反映できるものにするべきです。ところが最近の広報では、廃プラ処理施設でも保育所民営化の問題でも、行政の一方的な宣伝が目につきます。思い出すのは同和問題の特別扱いです。かつては、同和問題が年一、二回を除いて毎年掲載されていましたが、これは改善されただけに、市広報のあり方について十分な議論がもたられます。昨年、市は広報について市民アンケートを実施しています。それによれば、IT時代と言われている中、市のホームページの存在を知らない人が六二%、市政の情報を市民が知る機会が市広報がいちばん多い。「広報に望むこと」の問いには「市民情報の充実」が「市民情報の充実」を上回っています。この声にこたえ、市民の意見を反映させる方途をどうと考えるべきではないでしょうか。有料広告の掲載よりやるべきことがあるはずですが。

